

# 全国の産炭地の動画一覧

- (1)石炭の将来  
(1962年10月25日 RKB毎日放送 60分)
- (2)おじいちゃんはコンダクター  
石炭の町のオーケストラ ひかる先生と子どもたち  
(2000年1月22日 福岡放送 49分)
- (3)閉山、そして…  
(2002年5月25日 テレビ長崎 53分)
- (4)炭坑美人 ～闇を灯す女たち～  
(2002年5月31日 RKB毎日放送 45分)
- (5)どさんこドキュメント 心を彫る 時を刻む  
安田侃とアルテピアッツァ美唄  
(2008年2月23日 札幌テレビ放送 48分)
- (6)一平・直子のほっとスマイル 北海道の唄スペシャル  
苫小牧のよいとまけと夕張の黒ダイヤばやし  
(2009年5月27日 北海道放送 42分)
- (7)テレメンタリー2011 ヤマの記憶  
～山本作兵衛が残した心～  
(2011年9月5日 九州朝日放送 25分)
- (8)明治日本の産業革命遺産Ⅰ 日本  
(2015年10月4日 TBSテレビ 25分)
- (9)明治日本の産業革命遺産Ⅱ 日本  
(2015年10月11日 TBSテレビ 25分)

# 全国の産炭地の動画紹介

## (1) 石炭の将来

- ◇制作年 1962年10月25日
- ◇放送局 RKB毎日放送
- ◇時間 60分

★日本民間放送連盟賞（第11回報道社会番組部門優秀銅賞）

石炭から石油へ、エネルギー転換期のなかで、日本経済を支えてきた石炭産業はどうなるのか。筑豊をはじめ、長崎、山口県下などの炭鉱の実態をさぐったドキュメンタリー。◆技術的側面からみての石炭産業の現状、更に流通機構や、地理的条件からみた産炭地振興策の壁など、石炭産業をめぐる問題を論理的に解明しようとした。

## (2) おじいちゃんはコンダクター

### 石炭の町のオーケストラ ひかる先生と子どもたち

- ◇制作年 2000年1月22日
- ◇放送局 福岡放送
- ◇時間 49分

かつて石炭の町として栄えた福岡県田川市のアマチュアオーケストラ「筑豊青少年交響楽団」。楽団を支えてきた“ひかる先生”こと伊藤光さんの人生と、創立70周年の節目の年を迎えたオーケストラの日々を描く。◆1928年（昭和3）危険な作業に従事する炭坑労働者の慰労を目的としたオーケストラの結成に、14歳の少年抗夫として参加、エネルギー革命による炭鉱の閉山後は、私財を投じてジュニア・オーケストラとして再出発させ、今日まで守り続けてきた伊藤さん。12月に行われる創立70周年記念演奏会では、教え子でもある山下洋輔さんと共演することが決まっている。夏合宿や施設への慰問などを経ながら、だんだんと記念演奏会の日が近付いてくる。

### (3) 閉山、そして…

◇制作年 2002年5月25日  
◇放送局 テレビ長崎  
◇時間 53分

2001年11月に閉山した長崎県の池島炭鉱のその後を伝えるドキュメンタリー。◆長崎県西彼杵郡外海町の池島は、九州最後の炭鉱の町。しかし、石油との価格競争に敗れ、この炭鉱も2001年11月に灯が消された。ヤマへの愛着を払いのけ、男たちは新天地を目指す。しかし、新しい住まい探しにも再就職にも、厳しい現実が待っていた。閉山後の3つの家族の姿を追う。

### (4) 炭坑美人 ～闇を灯す女たち～

◇制作年 2002年5月31日  
◇放送局 RKB毎日放送  
◇時間 45分

★芸術祭賞（第57回ドキュメンタリーの部大賞）、  
日本民間放送連盟賞（第50回教養番組部門最優）

2002年1月30日、北海道の太平洋炭鉱が閉山し、日本の鉱山の灯が消えた。かつて福岡県筑豊の炭鉱坑内で働いていた女性たちの人生の物語を通して、20世紀の炭鉱産業の歴史の裏表を記録するとともに、21世紀へのメッセージを伝える。◆「先ヤマ」と呼ばれる男たちが掘った石炭を、背負い籠などで運び出す「後向き」の仕事に従事していた女性たち。真っ暗闇の地の底で這うように働き、逞しく生き抜いてきた女性たちも、いまはおばあちゃん。苦労を笑い飛ばす明るさ、弱いものに手を差し伸べる優しさ、体を張った仕事への誇り。その笑顔はまさに“炭坑美人”である。

(5) どさんこドキュメント 心を彫る 時を刻む  
安田侃とアルテピアッツァ美唄  
(2008.02.23 札幌テレビ放送 48分)

- ◇制作年 2008年2月23日
- ◇放送局 札幌テレビ放送
- ◇時間 48分

2011年5月、山本作兵衛の炭坑記録画が日本初の世界記憶遺産に登録された。作兵衛が残した約2000点の作品には、炭坑労働の様子や生活が絵と文章で生き生きと描かれている。その緻密さは驚嘆の域だ。一介の炭坑夫だった作兵衛が伝えたかった「ヤマ」とは何だったのか。◆日本の近代化を支えた産炭地・福岡県筑豊地方。山本作兵衛は7歳から炭坑で働き始め、還暦を過ぎて絵筆を握り、92歳で亡くなる直前まで絵を描き続けた。「私の絵にはひとつだけ嘘がある」。誰よりも嘘を嫌った作兵衛だが、真っ暗な坑内を色鮮やかな水彩画で描き続けた。番組はその言葉をキーワードに、作兵衛の心の底に迫っていく。◆「ヤマ」と親しまれる一方で「負の遺産」として忌み嫌われた炭坑。落盤事故の悲劇や、死への恐怖。遺族が耐え忍んできた苦悩…。山本作兵衛の貴重な生前の映像や原画、そして遺族や炭坑に関わった人々の証言を交え、日本を支えた炭坑夫たちの「ヤマへの思い」を詳らかにしていく。

→  
2022年8月17日に  
動画上映を  
実施しました。



(6) 一平・直子のほっとスマイル  
北海道の唄スペシャル  
苫小牧のよいとまけと夕張の黒ダイヤばやし

◇制作年 2009年5月27日

◇放送局 北海道放送

◇時間 42分

★日本民間放送連盟賞（第57回生ワイド番組部門優秀）

平日午前の2時間生番組。パーソナリティははずき一平と高橋直子（2004年4月放送開始）。北海道の民間に伝わる唄を紹介するコーナーで、今回は2つの作業唄を取り上げる。◆「よいとまけ」は、戦前に苫小牧の製紙工場で丸太を積む作業のときに歌われていた。作業に携わったのは、夫を亡くした若い母親たちだ。この唄を再現した方をゲストに迎え、実際に作業をしていた方へのインタビュー（十数年前に録音）や再現した唄を交えながら、作業の様子や、時代背景、当時の人々の生活を浮き彫りにする。一方、「黒ダイヤばやし」は1969年、夕張の最盛期に石炭をモチーフにしてできた唄で、夕張繁栄時代のシンボルだった。しかし、石炭産業の衰退と観光産業への転換において、次第に街でも聞かれなくなった。夕張在住の民謡歌手親子が当時の夕張の様子を語り、この唄をスタジオで歌う。

## (7) テレメンタリー2011 ヤマの記憶 ～山本作兵衛が残した心～

◇制作年 2011年9月5日

◇放送局 九州朝日放送

◇時間 25分

2011年5月、山本作兵衛の炭坑記録画が日本初の世界記憶遺産に登録された。作兵衛が残した約2000点の作品には、炭坑労働の様子や生活が絵と文章で生き生きと描かれている。その緻密さは驚嘆の域だ。一介の炭坑夫だった作兵衛が伝えたかった「ヤマ」とは何だったのか。◆日本の近代化を支えた産炭地・福岡県筑豊地方。山本作兵衛は7歳から炭坑で働き始め、還暦を過ぎて絵筆を握り、92歳で亡くなる直前まで絵を描き続けた。「私の絵にはひとつだけ嘘がある」。誰よりも嘘を嫌った作兵衛だが、真っ暗な坑内を色鮮やかな水彩画で描き続けた。番組はその言葉をキーワードに、作兵衛の心の底に迫っていく。◆「ヤマ」と親しまれる一方で「負の遺産」として忌み嫌われた炭坑。落盤事故の悲劇や、死への恐怖。遺族が耐え忍んできた苦悩…。山本作兵衛の貴重な生前の映像や原画、そして遺族や炭坑に関わった人々の証言を交え、日本を支えた炭坑夫たちの「ヤマへの思い」を詳らかにしていく。

↓2022年5月に上映会をりすたで実施しました。



## (8) 明治日本の産業革命遺産Ⅰ 日本

◇制作年 2015年10月4日  
◇放送局 TBSテレビ  
◇時間 25分

非西洋国でありながら、わずか50年で近代化をなしとげた明治の日本。その根幹となったのは動力源の「石炭」、原料の「鉄」、そして世界へ漕ぎ出す「船」だった。8県23カ所に及ぶ産業革命の痕跡から、今回はその舞台の一つ、長崎で繰り上げられた「石炭」と「船」に注目した。長崎造船では100年現役で使われ続けるクレーンに出会う。そこには、ものづくりのDNAが宿る日本だからこそなし得た奇跡の産業革命があった。◆明治日本の産業革命遺産（旧グラバー住宅、ジャイアント・カンチレバークレーン、第三ドック、長崎造船所旧木型場、端島炭坑「軍艦島」、小菅修船場跡）

## (9) 明治日本の産業革命遺産Ⅱ 日本

◇制作年 2015年10月11日  
◇放送局 TBSテレビ  
◇時間 25分

非西洋国でありながら、わずか50年で近代化をなしとげた明治の日本。その根幹となったのは動力源の「石炭」、原料の「鉄」そして世界へ漕ぎ出す「船」。8県23カ所に及ぶ産業革命の痕跡。今回は日本の骨格を造った「鉄」、そしてそれを支えた「石炭」に迫る。そこには奇跡の物語があった。◆明治の日本産業革命遺産（葦山反射炉、八幡製鉄所旧本事務所・修繕工場、三池港、三池炭鉱万田坑）